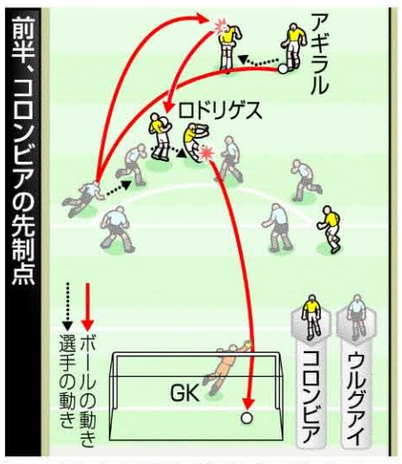
2014 FIFA WORLD CUP Brasil

コロンビア旋風 初の8強

聖地マラカナンで2ゴール「夢がかなったよ」

【コロンビア―ウルグアイ】前半、コロンビアのロドリゲス⑩が先制ゴールを決める（共同）



ロドリゲス 鮮やか4戦連発

後半40分。聖地マラカナンを埋めたコロンビアサポーターが、ピッチを退く背番号10を総立ちで出迎えた。4戦連発でチームを初のベスト8に導いたロドリゲスは「ずっとマラカナンでゴールを決めたいと思っていたんだ。夢がかなったよ」。もう一つの南米対決は22歳の独壇場だった。

前半28分の先制点は圧巻の一語に尽きる。ペナルティーエリアの外。後方からのパスを半身の体勢で胸トラップすると、振り向きざまに落下際を打ち抜いた。シュートはクロスバーをたたき、地面で勢いよく弾んでゴール上部へ。「今大会のベストゴールの一つだ」。敵将のタバレス監督も脱帽するしかない。

本能で打ったように見えて実は違う。パスが入る直前に首を右に振り、GKの位置をちゃっかり確認しているのだから憎らしい。瞬時の状況把握と正確なトラップ、シュート精度の高さが三位一体となったスーパーゴールだった。

本来は司令塔として攻撃陣を操るが、ファルカオ不在の今大会はストライカーとしての顔が色濃い。後半5分にもクアドラードの折り返しを難なく流し込み、通算5ゴール目。得点王争いの単独トップに躍り出た。4試合で15本のシュートを放ち、枠を外したのはたった1本。点取り屋としての才覚も十分だ。

「ハメスは試合を重ねるたびに自信を深めている。今回のW杯は彼の大会になるかもしれない」とペケルマン監督。次戦で開催国ブラジルを負かせば〝予言〟は一気に現実味を帯びてくる。（細井伸彦）

通算5ゴールで得点ランク首位

得点ランキングの首位に躍り出たロドリゲス。初戦からの4戦連発は2002年大会のロナウドとリバウド（ともにブラジル）以来。公式記録からも並外れたシュート技術の高さが分かる。1次リーグ3試合と決勝トーナメント1回戦で放った計15本のシュートのうち、実に14本を枠内に飛ばしている。ウルグアイ戦では胸トラップから反転、左足ミドルシュートをたたき込み、右足シュートで加点した。

02年大会のリバウドは準々決勝でもゴールし、5試合連続の計5点。ロナウドは4戦連続で止まったものの、準決勝で1点、決勝で2点を決めてチームの優勝に貢献し、計8ゴールで得点王に輝いた。

コロンビアの次戦は、その時以来の頂点を狙うブラジル。ロドリゲスはどこまで積み上げられるか。（共同）

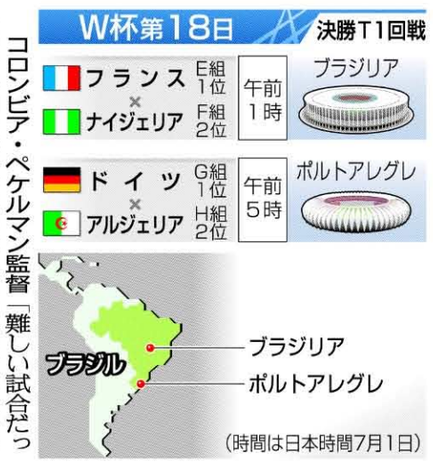
順位	得点	選手	国名
W杯得点ランキング（28日現在）			
①	5	ロドリゲス	（コロンビア）
②	4	ミュラー	（ドイツ）
②	4	メッシ	（アルゼンチン）
②	4	ネイマール	（ブラジル）
⑤	3	ベンゼマ	（フランス）
⑤	3	ロッベン	（オランダ）
⑤	3	ファンペルシー	（オランダ）
⑤	3	シャキリ	（スイス）
⑤	3	E・バレンシア	（エクアドル）

▽交代【コ】メヒア（後23分、グティエレス）グアリン（後36分、クアドラード）ラモス（後40分、ロドリゲス）【ウ】ストゥアニ（後8分、フォルラン）ラミレス（後8分、A・ペレイラ）エルナンデス（後22分、ゴンサレス）
▽警告【コ】アルメロ【ウ】ヒメネス、ルガノ

コロンビアが快勝。前半28分、ロドリゲスが胸トラップした浮き球をゴール正面約25㍍から左足で蹴り込み先制。後半5分には左右に揺さぶり、クロスをクアドラードが頭で落として再びロドリゲスが決めた。攻守の切り替えも速く、GKオスピナを中心にリードを守った。

ウルグアイは先行を許し、引き気味の布陣から逆襲で得点を狙う計算が狂った。後半は攻勢に出たものの、惜しいシュートをGKに阻まれるなど、相手の堅守を崩しきれなかった。

W杯第18日 決勝T1回戦



コロンビア・ペケルマン監督「難しい試合だったが、特別な選手が格の違いを見せた。本大会まで苦境にも立たされたが、その度に強くなり今は盤石だ。ブラジルとは好勝負になる」（共同）

スターは何故美しいのか

「すり足走法」無駄なく急加速

イラン戦でドリブルするメッシ。体重を落としてかかとを荷重点とすることで、地面から前に向かう力をもらう（AP）

メッシ アルゼンチン

メッシの走法を一口で言うと「すり足走法」である。イラン戦の後半4分。MFガゴがドリブルで前に出た。縦パスがメッシに通る。スペースに出て後ろ向きに球をもらったメッシは反時計回りに前を向きながら、左足で球をトラップ。相手が体を寄せてくると右足で球を左足の方へ小さく引き戻した。相手はメッシの左足に向かって体重を移動。だが、メッシの左足は当たった球を前にはじき、相手の逆を取った。

ここからのメッシの急激な加速が圧巻。メッシ劇場である。通常の選手は右足を前に踏み出して急激に加速する場合は、体重を乗せた左足のつま先（拇指球）で地面を強く蹴って出ていく。この方が力感があり、強く地面を蹴っている感じがし「速い」と脳は錯覚する。

メッシの動きは質が違う。階段を1段落下するように膝の支えを外し（これを「膝の抜き」と言う）、荷重点を左足の後ろのかかと部分に移動し、かかとで地面を踏む。動きに力感がない。決してかかとを上げてつま先で蹴らない。足裏はフルフラットである。いきなり動き出すので、相手は一瞬固まってついていけない。

理屈を述べよう。かかとを地面につけて荷重点（地面を押す部分）にすることで、より後方に地面を押し（作用）、体を前に押してくれる地面反力（反作用）がより大きくなる。このため、メッシは無駄なくスーッとすり足で急激に加速する。重心点と荷重点のずれから急激な加速が生じるのだ。

一方、かかとを上げてつま先で蹴ると、体を前に押してくれる地面反力が小さい。上に跳びはねてしまうからだ。動きの起こりも相手に見えてしまう。

誰でも両足をそろえた状態から、右足を1歩前に踏み出すときには、左足のかかとで地面を踏む。これは1歩踏み出すときに生じる無意識の姿勢調節の仕業である。無意識世界では、かかとは前に出るときのアクセルである。つま先は前に行くのを止めるブレーキ。意識の世界では、ややもすると、かかとを踏むと後ろに下がってしまうと思ってしまう。体という自然界からわれわれは思いもよらぬことを学ぶことができる。体のほうが意識より賢いのだ。

メッシの動きは賢く美しい。自然に動くとはこのことだ。日本のサッカー選手は、相手を抜くときには地面を強く蹴ることを意識しろ、と教わる。世界の美技は、意識を外すことが一流への道であることを諭してくれる。

（小田伸午 関西大学人間健康学部教授＝スポーツ科学）＝随時掲載

ウルグアイ、エース追放響く

ウルグアイのフォルラン（右）は無得点のままW杯のピッチを去った（共同）

フォルラン不発

得点源であるスアレスの不在が、ウルグアイにずしりとのしかかった。「サッカーには、ロドリゲスのような質の高い選手が必要だ」とタバレス監督。1次リーグのイタリア戦で相手選手にかみついたエースに、9試合の出場停止処分が下ったことへの恨み節が口をついた。

シュート数は相手を上回る16本。2点を追う後半途中から攻勢をかけた。19分、ロドリゲスがドリブル突破から左足で狙い、34分にはM・ペレイラがGKと1対1に。5分後にはカバニがシュートを放ったが、コロンビアの守護神オスピナの好セーブにことごとく阻まれた。

2得点を挙げたコロンビアの大黒柱を「彼が大会のベストプレーヤーといっても過言ではない」と持ち上げた指揮官。一方で自国のエースは、騒動を巻き起こして失意の帰国を余儀なくされたのだからたまらない。

64年前、ブラジルを奈落の底に突き落としたマラカナン。王国に「悲劇」をもたらしたウルグアイが再度、頂点を懸けた舞台に立つことはかなわなかった。（細井伸彦）

◇…前回大会最優秀選手の面影はなかった。今季からJ1のC大阪でプレーするウルグアイのフォルランは、ピッチで存在感を示せず後半8分に途中交代した。自身3度目のW杯は無得点のまま終わり「強い相手に負けた。それだけだ」と語る表情に寂しさが漂った。

スアレスが出場停止処分を受けたためフォルランに3試合ぶりに出番が回ってきた。

カバニとの2トップで先発したが、動きが重くシュートはわずか1本。前半途中には相手のジェペスに肩からぶつかってにらみ合うなど、いら立ちを隠せなかった。（共同）

スアレス「かんでない」

【レシフェ＝共同】相手選手にかみついたとして、4カ月の活動禁止など厳罰を受けたウルグアイのFWスアレスが「バランスを失って不安定になり、相手選手に倒れかかった。かんだり、かもうとしたりはしていない」と、国際サッカー連盟（FIFA）への答弁書で主張していたと28日、英BBC放送（電子版）が報じた。

スアレスはFIFAの規律委員会に答弁書を提出した。同委員会は24日のイタリア戦でスアレスが「挑発を受けていないのに、故意に」かみついたと断じ、代表戦9試合の出場停止を含む厳しい処分を科した。

ウルグアイ・サッカー協会は29日までに正式に異議を申し立てる方針。

◉米国の視聴者数、NBA決勝超え

国際サッカー連盟（FIFA）は28日、1次リーグのテレビ視聴者数が世界各国で好調で、特に時差が少ない米国で記録的な数字をマークしたと発表した。今大会の世界全体の視聴者数は、4年前の南アフリカ大会の32億人を超えると予想した。FIFAによると、22日の米国―ポルトガルは米国内で2470万人がテレビ観戦した。この数字は米プロバスケットボールのNBA決勝の過去最高を超え、昨年の米大リーグ・ワールドシリーズの平均を上回るという。（共同）

天皇杯出場の45代表が決定

サッカーの第94回天皇杯全日本選手権の都道府県代表決定戦は29日、各地で行われ、今季新設されたJ3から盛岡や秋田、福島、YS横浜、金沢、鳥取、琉球が出場を決めた。この日で北海道と群馬県を除く45代表が決定した。山梨県は山梨学院大付高が3年ぶり2度目の出場。明大や筑波大、京産大、関学大、高知大、佐賀大も勝った。

天皇杯は7月5日に開幕し、前回覇者の横浜MなどJ1、J2勢は2回戦から登場する。決勝は東京・国立競技場が改築工事に入るため、12月13日に横浜市の日産スタジアムで行われる。

J2京都新監督 川勝氏就任発表

J2京都は29日、新監督にJ1神戸などを指揮した川勝良一氏(56)＝写真＝の就任を発表した。川勝氏はクラブを通じ、「自分のすべてをチームのために発揮し、常に高い志を持って仕事をしていく」とコメントした。

川勝氏は京都府出身で、京都の前身に当たる京都紫光クラブなどでプレー経験を持ち、J2の福岡や東京Vの監督を歴任した。京都は今季、ブラジル人のバドゥ氏が監督に就任したが、成績不振で18日に解任され、森下仁志コーチが監督代行を務めていた。

なでしこリーグ

（29日、伊賀市上野運動公園競技場）

▽第11節

岡山湯郷	3−1	伊賀	
◆フットサルinセリーグ（29日、国立代々木競技場）			
浦和	2−2	名古屋	
大阪	7−2	南分	
湘南	4−3	浜松	
新潟	3−2	中京大	
北海道			